

養護教諭養成課程の学外実習に関する研究

— 第4報 養護実習の現状分析 —

| | |
|---------------|---------|
| 愛知教育大学 養護教育教室 | 堀 内 久美子 |
| 同 | 天 野 敦 子 |
| 同 | 佐 藤 和 子 |
| 同 | 野 村 和 雄 |
| 同 | 松 浦 鏡 治 |
| 同 | 安 田 道 子 |
| 同 | 渡 邊 貢 次 |

はじめに

養護教諭養成課程の教育の中で、養護実習はきわめて重要な位置を占めている。本学養護教諭養成課程でも15年にわたり養護実習を行ってきた。しかし養護実習についての研究の蓄積はまだ少なく、理論と実践の両面からの追求が必要と思われる。そこで本研究では、養護実習を終了した学生の実習経験と実習中困ったこと、実習への希望、養護教諭志望の変化等の意見を把握して、よりよい養護実習への示唆を得たい。

1. 養護実習の概要

(1) 教育課程における養護実習の位置

養護教育免許を取得するために養護実習は欠かせないものである。教育職員免許施工規則によれば、養護教諭専修、一種、二種各免許状ともに養護実習4単位必修となっている。本学教員養成課程では卒業要件に教育実地研究4単位(1992年からは事前事後指導を含めて5単位)が組み込まれており、養護教諭養成課程でも3年次10月に4週間の養護実習を小学校で行っている。

養護教諭養成課程の教育課程のうち養護実習前に行われる授業は、3年前期までのものである。養護教諭の活動全般にわたる授業としては養護教諭論、養護活動実習Ⅰがあり、学校保健関係では学校保健概論、学校保健実習Ⅰ・Ⅱ、看護・救急処置関係では看護学、看護学実習Ⅰ・Ⅱおよび救急処置がある。養護教諭論の授業では、養護教諭養成コースをもつ10大学の看護・養護関係の教官が共同で執筆したテキスト¹⁾(内容は養護教諭の

専門性、学校での看護活動、組織活動、保健指導、養護実習、臨床実習、保健所実習など)を用いて演習を行っている。特に「養護実習」の章には実習の目標、内容、実施例、記録の書き方などが示されており、学生は実習に自分自身がどのようにとりくむかを考えるよい機会となっている。

(2) 養護実習の目標および内容

実習の目的、内容等は全学の実習を1冊にまとめた「教育実地研究の手引」に示されている。養護実習の目標を要約すれば次の通りである。

- ①学校の特性と教育・保健活動を知る
- ②発育発達過程にある児童の特質と学校生活の実態を知る
- ③養護教諭として保健上の問題に関して適切な判断・処置・指導ができる能力を養う
- ④教師としての研究活動の実践を知る

(3) 実習の時期、期間および実習生配当

本学の教員養成諸課程の大部分では主実習が前述の時期に集中的に行われている。養護実習の実習校は附属小学校および県内公立小学校で40校余であり、学生は1校に小学校課程の学生数名と共に1~2名配当されることが多い。

(4) 養護実習の事前指導および実習校との打合せ

大学全体として、主実習の事前指導は9月初旬に2日間設定し、1日は大学、1日は附属校(各課程に対する校種であるが、養護実習は小学校2校)で行っている。大学における事前指導のうち各科(教室)教官が行う内容は「実習の意義、目標、内容、実習生の心得、提出物について」であり、養護教育教室ではこの部分を教育実習委員

の教官(2~3名)が担当し、過去の実施例などをとり入れて指導している。

大学と実習校との打合せ会(県内5地区で行われる)には養護教育教室教官も出席して実習の目標、内容、実施計画等について説明し、養護実習に対する実習校の理解を得るよう努めている。

2. 調査の方法

(1)調査対象

1983、85、86、88~91年の各年に養護実習を行った実習生を対象とした。各年の実習参加人数は1989年までは55~60名、1990年以後は約50名であった。

(2)調査時期および調査方法

各年とも11月初旬(養護実習終了後約1週間)に実習反省会を行い、その際集団調査を実施した。

(3)調査内容

各年ともほぼ同じ内容で、実習形態と実習内容、保健指導・保健学習の実習の有無と時間数、実習中困ったこと、実習で得たもの、実習前の準備学習、実習に関する希望、実習経験による養護教諭志望の変化などである。

(4)回収状況

回収数は350名(回収率90%)で、年度別内訳は表1の通りである。

3. 結果

(1)実習校の特性

学生が実習した実習校の特性を表2に示す。児童数601~900名の学校が約半数を占め、養護教諭の経験年数は6~10年が26%、11年以上が48%であった。

(2)実習計画

「総合的に考えて立てられていた」が70%、「ほとんどが養護に関する実習」が19%で、両者を合計すると約9割であった。「教科の実習が主」とする者は5%と少なかった(表3)。

(3)実習形態別にみた実習経験

実習項目を45項目に細分し、それぞれについて、(ア)講話・説明、(イ)観察、(ウ)参加・実習のいずれか(複数回答可)、あるいは(エ)全くなしのどれに該当するか記入させた。調査年の

前半(1983、85、86年)と後半(1988~1991年)にわけてみた結果を表4に示す。前半と後半の傾向はほぼ似ており、そのうち①参加・実習の多いもの、②講話の多いもの、③「なし」の多いものは次の通りであった。

①(9項目):救急処置の判断と実施、遠足・運動会等への参加、欠席調査、健康観察、保健日より、児童の給食指導・手洗い・配膳、予防接種、児童保健委員会、保健室の管理・運営。

②(7項目):小学校教育の概要、学校保健安全計画、養護教諭の執務計画、学校保健委員会、救急処置計画、職員の健康管理、学校行事参加上問題となる児童の取扱い。

③(8項目):職員保健部会、PTAの保健活動、保健放送、調理場・作業員等の衛生管理、健康上問題を持った児童のクラブ参加、家庭訪問、学校保健活動の評価、養護教諭活動の自己評価。

一方、前半と後半で変化(約10%以上の増減)がみられたものは次の通りであった。

①後半で講話が増え「なし」が減ったもの(3項目):養護教諭の執務計画、職員保健部会、救急処置計画。

②後半で講話が減り、観察または参加・実習が増えたもの(3項目):定期健康診断、欠席調査、学級保健活動。

③後半で「なし」が増えたもの(2項目):保健学習、健康上問題を持った児童のクラブ参加。

(4)保健学習・保健指導に関する実習

実習生が保健指導や保健学習の実習を行ったかどうかを表5に示す。全校対象の保健指導は2~3割、学年対象は2割、学級対象は調査年の前半9割、後半8割が実習していた。また保健学習は前半5割、後半4割が実習していた。学級対象保健指導の実習時間数(時間数の明らかなもののみ)は表6の通りである。1~2時間が前半58%、後半43%で、後半には時間数の多い実習生がやや多くなっていた。

(5)実習中に困った経験

「実習中に困ったこと、いやだったこと」(自由記述)は表7の通り、担任と養護教諭の間で苦勞したことや学級と保健室の比重のおき方についての記述が最も多く、保健室での仕事の内容、授

業（保健指導）がこれに次いでいた。調査年の前半と後半ではあまり違いはないが、学級と保健室の比重のおき方や授業（保健指導）についての意見が後半にやや多くみられた。

(6) 養護実習に対する学生の希望

「養護実習に希望すること」（自由記述）は、表8の通り、「もっと保健室の実習がやりたい」との意見や実習計画・内容に関するものが多くあげられた。しかし逆に「もっと学級で子どもに接したい」との意見もみられた。また、実習生の配当についても複数配当を「望む」「避けてほしい」と相反する意見が含まれていた。

調査年の前半と後半ではあまり違いはないが、後半では「もっと保健室へ」と「大学と実習校との連絡を密に」が増え、「実習計画・内容」が減っていた。

(7) 実習前の準備学習

「実習前に学んでおくべきだと思ったこと」（自由記述）は表9の通り、救急処置や養護教諭の職務、授業（指導案）に関するものが多かった。調査年の前半と後半では、後半は「内科・外科的疾患」が減り、「精神衛生」が増えたほかはあまり違いはなかった。

(8) 実習で得たこと

「実習で得たこと、印象に残ったこと」（自由記述）は、表10の通り、子どもの特性、養護教諭の活動や役割、養護教諭と子どもとの対応や他教師との関わりなどが多くあげられた。

(9) 保健指導の実習時間数と実習への意見

学級対象保健指導の実習時間数の多い学生と少ない学生で「困ったこと」や「実習への希望」「得たこと」が異なるかどうかをみたが、目立った差はなかった。

(10) 実習経験による養護教諭志望の変化

1986年以降の学生に対して「養護実習を終えた今、あなたの心境は次のいずれかに近いですか」と質問し、ア「もともと養護教諭を希望していたが、さらに養護教諭になりたいと思うようになった」、イ「もともと希望していなかったが養護教諭になりたいと思うようになった」、ウ「養護教諭を希望していたが、養護教諭にはなりたくないと思うようになった」、エ「その他」のいずれか

を選択させた。結果は表11に示す通り、養護教諭になりたい気持ちがさらに強められたとの回答が56%を占めた。「その他」を選択した17%の中では「迷っている」者が多かった。

(11) 養護教諭志望が変化した者の実習への意見

上記の質問にイと答えた者（以下「実習後積極的になった者」とする）およびウと答えた者（以下「実習後消極的になった者」とする）の特徴を知るため、この質問と「実習で得たこと」および「実習中困ったこと」のクロス集計を試みるとともに、該当者の記述内容を詳細に読みとった。その結果、「実習中困ったこと」の回答では、実習後積極的になった者36名のうち8名が「子どもとの対応」をあげていたのに対して、実習後消極的になった者は18名中1名のみであった。また「自分の力量不足」は前者3名に対して後者は0であった。一方、後者では、9名が保健室と学級の比重（養護教諭と担任）や他の実習生との内容の違い、養護実習の理解不足を何らかのかたちで記述していた。

4. 考察

(1) 保健室と学級との比重のおき方

現在の養護実習の問題点のひとつは、保健室と学級の比重といえるであろう。さきに養護実習を指導した養護教諭を対象とした調査を行って学級配属の是非を質問したところ、学級配属を否定する意見はほとんど出なかった²⁾。子どもを観察したり、子どもと直接ふれあう場として学級配属が意義のあるものであることを多数の養護教諭が認めている。しかし、そのために保健室での実習が少なくなるようでは本末転倒になってしまうであろう。

学級での実習の中でも大きな部分を占めるのが保健指導（または保健学習）である。現在、大学からは1～2時間程度を依頼しており、指導案を最低1部（1時間分）提出するよう定めている。現実に実習校で行われていた学級対象の保健指導の教時間は、1～2時間が半数、3～5時間が4割である（表6）。一方、上記の調査での養護教諭の回答によれば5時間以下が8割で、多くの養護教諭がこれを適当だとしている³⁾。学級対象保

健指導の時間数と実習についての意見(困ったこと、得たもの、実習への希望)にはあまり関連がみられなかったので、本調査結果からは望ましい時間数を設定することはできない。

学級で直接児童に教えるためには、児童がそれまでに学習したことや児童特有の思考方法、それらの背景となっている児童の生活や行動、また交友関係などを知らなければならない。そのため実習生は学級で観察・参加をし、給食を共にし、休み時間にも共に遊びながら観察をしていく。しかし、保健室での養護教諭としての子どもとのふれあいは、さまざまな学年の子ども達が保健室を訪れるのに対応する場面でなされることが多く、それは休み時間や給食の準備中など授業のない時間帯が中心となる。こうした時間帯をどう使うかについては実習生は保健室と学級の「板ばさみ」を感じ困惑するのであろう(表7)。

大谷⁴⁾は、中学校3週間の養護実習の期間中に実習生(4年生)が生徒に対応する能力を習得する状況について調査し、内科的処置や頻回来室者への対応においては3週間以上の期間が必要だとしている。本学の養護実習は小学校で行われているので直接あてはまらない面もあるかもしれないが、実習の手引では小学校教育全般の理解におよそ1週間、養護教諭の執務におよそ3週間をあてるとしている。養護実習の日程・内容について(教諭の実習との違いを含めて)実習校の理解を深めるよう、大学として一層努力しなければならないだろう。

(2)実習前の準備学習

「実習前に学んでおくべきだと思ったこと」には、学生からみた関連科目の復習や再確認が多くあげられた。最近の子どもの健康問題を反映して精神衛生が重視されていることも注目される。授業科目の学年配当の変更は困難ではあるが、関連科目でより実際の活動と結びつけたり、事前指導の際こうした調査結果を紹介して実習前の学習を重点的に行わせることが有効であろう。

(3)養護教諭になろうとする意欲の育成

日本学校保健学会共同研究班⁵⁾では、養護実習の目標のひとつを、「自らの養護教諭としての能力適性を量りつつ今後の研鑽すべき課題を把握す

るとともに自己の描く養護教諭像へ自らを近づけていく見通しをもつ」と設定している。こうした点からみて、実習後「もともと希望していたがさらに養護教諭になりたくなった」との回答が56%を占め、実習後積極的になったものとあわせて70%にのぼることは好ましいことであり、養護実習の意義が改めて確認できる。反面、実習後消極的になった学生が8%あり、かれらの実習経験も十分に検討されなければならない。実習後積極的になった学生の実習経験の受け止めかたと対比してみると、実習指導体制の違いはあるものの、積極的になった学生は、子どもとのふれあいから確実に何かをつかもうとする姿勢や謙虚に学ぼうとする態度があるともいえるようである。

大谷⁶⁾は実習校養護教諭の指導が学生の養護教諭観に及ぼす影響を調査し、実習校の指導教官(養護教諭)が強調して指導したことがそのまま実習生の養護教諭観となる面もみられるが、指導されなかったことでも実習生が肌で感じ取った部分もあると述べている。このことは当然と考えられるが、実習生は養護教諭の仕事の難しさやきびしさを現場の体験を通して感じ、それが「自分にできるだろうか」という迷いとなっているとも思われる。

ところで、「養護教諭になりたいが採用されるかどうか」という不安が学生にあることも見逃せない。他府県を含めた就職状況は表12の通りであり、最近では教員以外への就職が増えつつある。このことが現在直接に養護教諭志向に影響はしていないようであるが、今後養護教諭への意欲を高める働きかけはますます重要になっていくといえよう。

おわりに

養護実習は養護教諭養成課程の学外実習の要ともいうべきものであり、本研究1～3報^{7) 9)}の臨床実習、保健所実習、副免実習と相互に関連をもちつつ養護教諭の能力形成に重要な役割を果たす。本報では学生を対象とした調査から養護実習の現状と問題点をさぐり、①大学と実習校との連絡を密にする、②学生への事前指導を徹底することなどを指摘することができた。特に、学生が養

護教諭になろうとする意欲を高めるためにもこれらが重要であると思われる。

1992年の実習からは「事前・事後指導1単位」として、事前指導内容を一層充実させる予定である。学生の主体的なとりくみをめざす教官自身の実践が必要であることを自覚し、引続き努力したい。

(1991年12月25日受理)

文献

- 1) 飯田登美子他：養護活動の基礎 家政教育社、1988
- 2) 愛知教育大学養護教育教室：養護教諭養成課程における教育内容の改善に関する調査研究—養護実習を中心に— (大学教育方法等改善研究報告) 1990 p.15
- 3) 同上 p.19
- 4) 大谷尚子：養護実習の計画に関する研究(4)—養護実習の期間に関する検討—茨城大学教育学部教育研究所紀要17、1985 p.127~134
- 5) 日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班：これからの養護教諭の教育、東山書房、1991 p.92
- 6) 大谷尚子：養護実習に関する実態調査(第4報) 実習生の養護教諭観と実習校指導教官の実習状況との関連について、学校保健研究vol.22、保健研究社、1980 p.379~386
- 7) 松浦鎮治他：養護教諭養成課程の学外実習に関する研究 第1報 臨床実習の現状分析、愛知教育大学教科教育センター研究報告第12号、1988 p.37~45
- 8) 松浦鎮治他：同上第2報 保健所実習の現状分析、同第13号、1989 p.91~95
- 9) 野村和雄：同上第3報 副実習の検討、同第14号、1990 p.97~102

表1 調査年別回答者

| 調査年 | 人数 |
|-------|-----|
| 1983年 | 46 |
| 1985年 | 42 |
| 1986年 | 58 |
| 1988年 | 53 |
| 1989年 | 59 |
| 1990年 | 48 |
| 1991年 | 44 |
| 合計 | 350 |

表2 実習校の特性

n = 350

| 項目 | 区分 | 人数 (%) |
|-----------------|-----------|------------|
| 実習校の規模 (児童数) | 300名以下 | 9 (2.6) |
| | 301~600名 | 82 (23.4) |
| | 601~900名 | 170 (48.6) |
| | 901~1200名 | 54 (15.4) |
| | 1200名以上 | 18 (5.1) |
| | 不明 | 17 (4.9) |
| 養護教諭の 経験年数 | 5年以下 | 55 (15.7) |
| | 6~10年 | 92 (26.3) |
| | 11~15年 | 88 (25.1) |
| | 16~20年 | 55 (15.7) |
| | 21年以上 | 26 (7.4) |
| | 不明 | 34 (9.7) |

表3 養護実習の計画

n = 350

| 項目 | 人数 (%) |
|-------------------|------------|
| 総合的に考えられていた | 245 (70.0) |
| ほとんどが養護に関する実習であった | 65 (18.6) |
| 養護実習より教科の実習が主であった | 17 (4.9) |
| その他 | 18 (5.1) |
| 不明 | 5 (1.4) |

表4 実習形態にみた実習経験

人数(%)

| 実習項目 | 調査年 | | 1983～1986 n=146 | | | | 1988～1991 n=204 | | | |
|-------------------------|------------|------------|-----------------|------------|------------|------------|-----------------|------------|------------|--|
| | 実習の有無と実習形態 | | あり* | なし | | | あり* | なし | | |
| | あ | り* | あ | り* | なし | あ | り* | なし | | |
| ○ 1. 小学校教育の概要 | 135 (92.5) | 10 (6.8) | 0 | 8 (5.5) | 8 (5.5) | 194 (95.1) | 17 (8.3) | 4 (2.0) | 8 (3.9) | |
| ○ 2. 学校保健安全計画 | 137 (93.8) | 4 (2.7) | 1 (0.7) | 9 (6.2) | 9 (6.2) | 191 (93.6) | 9 (4.4) | 5 (2.5) | 10 (4.9) | |
| ○☆ 3. 養護教諭の執務計画 | 121 (82.9) | 15 (10.3) | 7 (4.8) | 15 (10.3) | 15 (10.3) | 193 (94.6) | 28 (13.7) | 16 (7.8) | 2 (1.0) | |
| ○ 4. 学校保健委員会 | 104 (71.2) | 4 (2.7) | 4 (2.7) | 38 (26.0) | 38 (26.0) | 146 (71.6) | 11 (5.4) | 15 (7.4) | 47 (23.0) | |
| ◎ 5. 児童保健委員会 | 64 (43.8) | 105 (71.9) | 90 (61.6) | 1 (0.7) | 1 (0.7) | 70 (34.3) | 129 (63.2) | 120 (58.8) | 13 (6.4) | |
| 6. 児童会 | 42 (28.8) | 69 (47.3) | 13 (8.9) | 52 (35.6) | 52 (35.6) | 45 (22.1) | 96 (47.1) | 22 (10.8) | 75 (36.8) | |
| ●☆ 7. 職員保健部会 | 34 (23.3) | 6 (4.1) | 5 (3.4) | 107 (73.3) | 107 (73.3) | 66 (32.4) | 12 (5.9) | 5 (2.5) | 126 (61.8) | |
| ● 8. P T Aの保健活動 | 25 (17.1) | 1 (0.7) | 0 | 121 (82.9) | 121 (82.9) | 42 (20.6) | 3 (1.5) | 4 (2.0) | 157 (77.0) | |
| 9. 児童の発育発達 | 70 (47.9) | 47 (32.2) | 39 (26.7) | 39 (26.7) | 39 (26.7) | 76 (37.3) | 60 (29.4) | 37 (18.1) | 79 (38.7) | |
| ★ 10. 定期健康診断 | 113 (77.4) | 31 (21.2) | 51 (34.9) | 11 (7.5) | 11 (7.5) | 136 (66.7) | 58 (28.4) | 91 (44.6) | 27 (13.2) | |
| 11. 臨時健康診断 | 74 (50.7) | 34 (23.3) | 43 (29.5) | 43 (29.5) | 43 (29.5) | 89 (43.6) | 43 (21.1) | 68 (33.4) | 67 (32.8) | |
| 12. 就学時健康診断 | 102 (69.9) | 7 (4.8) | 22 (15.1) | 35 (24.0) | 35 (24.0) | 139 (67.2) | 21 (10.3) | 42 (20.6) | 44 (21.6) | |
| ◎ 13. 健康観察 | 91 (62.3) | 89 (61.0) | 91 (62.3) | 5 (3.4) | 5 (3.4) | 112 (54.9) | 119 (58.3) | 150 (73.5) | 10 (4.9) | |
| ◎★ 14. 欠席調査 | 89 (61.0) | 83 (56.8) | 101 (69.2) | 11 (7.5) | 11 (7.5) | 96 (47.1) | 98 (48.0) | 164 (80.4) | 15 (7.4) | |
| 15. 環境衛生検査 | 88 (60.3) | 50 (34.2) | 77 (52.7) | 22 (15.1) | 22 (15.1) | 115 (56.4) | 69 (33.8) | 97 (47.5) | 30 (14.7) | |
| 16. 環境施設の安全点検 | 86 (58.9) | 35 (24.0) | 68 (46.6) | 26 (17.8) | 26 (17.8) | 126 (61.8) | 44 (21.6) | 85 (41.7) | 34 (16.7) | |
| 17. 健康センター事務、災害報告書の作成 | 120 (82.2) | 40 (27.4) | 54 (39.0) | 12 (8.2) | 12 (8.2) | 149 (73.0) | 49 (24.0) | 88 (43.1) | 22 (10.8) | |
| 18. 健康問題発見に関する各種調査 | 79 (54.1) | 21 (14.4) | 21 (14.4) | 53 (36.3) | 53 (36.3) | 99 (48.5) | 30 (14.7) | 24 (11.8) | 77 (37.7) | |
| 19. 健康上問題を持った児童への個別指導 | 76 (52.1) | 40 (27.4) | 57 (39.0) | 36 (24.7) | 36 (24.7) | 105 (51.5) | 61 (29.9) | 74 (36.3) | 37 (18.1) | |
| 20. 健康上問題を持った児童の保護者への助言 | 55 (37.7) | 18 (12.3) | 10 (6.8) | 77 (52.7) | 77 (52.7) | 76 (37.3) | 30 (14.7) | 13 (6.4) | 101 (49.5) | |
| 21. 健康相談 | 63 (43.2) | 14 (9.6) | 12 (8.2) | 69 (47.3) | 69 (47.3) | 81 (39.7) | 19 (9.6) | 14 (6.6) | 111 (54.4) | |
| ○☆ 22. 救急処置計画 | 92 (63.0) | 18 (12.3) | 8 (5.5) | 48 (32.9) | 48 (32.9) | 153 (75.0) | 35 (17.2) | 29 (14.2) | 34 (16.7) | |
| ◎ 23. 救急処置の判断と実施 | 72 (49.3) | 68 (46.6) | 82 (56.2) | 2 (1.4) | 2 (1.4) | 135 (66.2) | 140 (68.6) | 191 (93.6) | 0 | |
| 24. 救急処置に関する現職教育 | 56 (38.4) | 8 (5.5) | 6 (4.1) | 88 (60.3) | 88 (60.3) | 77 (37.7) | 15 (7.4) | 12 (5.9) | 116 (56.9) | |
| 25. 集団の保健指導 | 71 (48.6) | 42 (28.8) | 65 (44.5) | 38 (26.0) | 38 (26.0) | 86 (42.2) | 70 (34.3) | 117 (57.4) | 36 (17.6) | |

堀内,天野,佐藤,野村,松浦,安田,渡邊:養護教諭養成課程の学外実習に関する研究

| | | | | | | | | |
|---------------------------|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| △ 26. 保健学習 | 61 (41.8) | 32 (21.9) | <u>74 (50.7)</u> | 36 (24.7) | 46 (22.5) | 34 (16.7) | 73 (35.8) | 97 (47.5) |
| ◎ 27. 保健だより | <u>85 (58.2)</u> | 34 (23.3) | <u>122 (83.6)</u> | 6 (4.1) | 100 (49.0) | 40 (19.6) | <u>154 (75.5)</u> | 19 (9.3) |
| ● 28. 保健放送 | 33 (22.6) | 29 (19.9) | 40 (27.4) | <u>76 (52.1)</u> | 25 (12.3) | 24 (11.8) | 44 (21.6) | <u>131 (64.2)</u> |
| ◎ 29. 保健室の運営・管理 | <u>122 (83.6)</u> | <u>74 (50.7)</u> | <u>75 (51.4)</u> | 1 (0.7) | <u>163 (79.9)</u> | <u>109 (53.4)</u> | <u>111 (54.4)</u> | 2 (1.0) |
| 30. 伝染病の予防対策と発生時の処置 | <u>103 (70.5)</u> | 3 (2.1) | 3 (2.1) | 39 (26.7) | <u>149 (73.0)</u> | 14 (6.9) | 8 (3.9) | 49 (24.0) |
| ◎ 31. 予防接種 | <u>111 (76.0)</u> | 51 (34.9) | <u>93 (63.7)</u> | 9 (6.2) | <u>129 (63.2)</u> | 66 (32.4) | <u>134 (65.9)</u> | 11 (5.4) |
| ● 32. 調理場、作業員等の衛生管理 | 51 (34.9) | 17 (11.6) | 2 (1.4) | <u>90 (61.6)</u> | 55 (27.0) | 29 (14.2) | 6 (2.9) | <u>137 (67.2)</u> |
| ◎ 33. 児童の給食指導、手洗い、配膳 | 67 (45.9) | 91 (62.3) | <u>97 (66.4)</u> | 15 (10.3) | 75 (36.8) | <u>113 (55.4)</u> | <u>139 (68.1)</u> | <u>22 (70.8)</u> |
| ○ 34. 学校行事参加上問題となる児童の取り扱い | <u>81 (55.5)</u> | 34 (23.3) | 7 (4.8) | 51 (34.9) | <u>105 (51.5)</u> | 42 (20.6) | 24 (11.8) | 70 (34.3) |
| ◎ 35. 遠足、運動会等への参加 | <u>39 (26.7)</u> | 46 (31.5) | <u>124 (84.9)</u> | 15 (10.3) | 44 (21.6) | 32 (15.7) | <u>175 (85.8)</u> | 18 (8.8) |
| ●△ 36. 健康上問題を持った児童のクラブ参加 | 29 (19.9) | 9 (6.2) | 17 (11.6) | <u>97 (66.4)</u> | 25 (12.3) | 11 (5.4) | 14 (6.9) | <u>160 (78.4)</u> |
| ○ 37. 職員の健康管理 | <u>88 (60.3)</u> | 14 (9.6) | 8 (5.5) | <u>49 (33.6)</u> | <u>127 (62.3)</u> | 19 (9.3) | 12 (5.9) | 64 (31.4) |
| 38. 諸記録 | <u>118 (80.8)</u> | 47 (32.2) | 66 (45.2) | 3 (2.1) | <u>144 (70.6)</u> | 59 (28.9) | <u>108 (52.9)</u> | 6 (2.9) |
| 39. 統計の種類と活用 | <u>91 (62.3)</u> | 33 (22.6) | 33 (22.6) | 41 (28.1) | <u>126 (61.8)</u> | 39 (19.1) | 53 (26.0) | 49 (24.0) |
| ● 40. 家庭訪問 | 17 (11.6) | 2 (1.4) | 3 (2.1) | <u>125 (85.6)</u> | 22 (10.8) | 2 (1.0) | 7 (3.4) | <u>174 (85.3)</u> |
| ★ 41. 学級保健活動 | <u>79 (54.1)</u> | 20 (13.7) | 23 (15.8) | 46 (31.5) | 61 (29.9) | 54 (26.5) | 65 (31.9) | 67 (32.8) |
| ● 42. 学校保健活動の評価 | <u>48 (32.9)</u> | 8 (5.5) | 2 (1.4) | <u>92 (63.0)</u> | 63 (30.9) | 6 (2.9) | 9 (4.4) | <u>127 (62.3)</u> |
| ● 43. 養護教諭活動の自己評価 | 55 (37.7) | 4 (2.7) | 0 | <u>89 (61.0)</u> | 62 (30.4) | 7 (3.4) | 7 (3.4) | <u>133 (65.2)</u> |
| 44. 日常の執務における研修・研究活動 | <u>78 (53.4)</u> | 22 (15.1) | 15 (10.3) | 51 (34.9) | 92 (45.1) | 24 (11.8) | 16 (7.8) | 86 (42.2) |
| 45. 地区養護部会参加 | <u>65 (44.5)</u> | 2 (1.4) | 11 (7.5) | 75 (51.4) | 80 (39.2) | 6 (2.9) | 8 (3.9) | <u>114 (55.9)</u> |

* 「あり」のみ複数回答あり、下線は回答者数が50%以上を示したもの。

◎ 前半・後半ともに「参加・実習」が多いもの。

○ 前半・後半ともに「講話」が多く、「観察」や「参加・実習」が少ないもの。

● 前半・後半ともに「なし」が多いもの。

☆ 後半で「講話」が増え、「なし」が減ったもの。

★ 後半で「講話」が減り、「観察」または「参加・実習」が増えたもの。

△ 後半で「なし」が増えたもの。

表5 保健指導等の実習状況(複数回答)

| | | 人数(%) | | |
|-------|----|------------------------|------------------------|-----------------|
| 項目 | 対象 | 1983～1986年 146(100) | 1988～1991年 204(100) | 全 体 350(100) |
| 保健指導 | 全校 | 34(23.3) | 65(31.9) | 99(28.3) |
| | 学年 | 39(19.9) | 42(20.6) | 71(20.3) |
| | 学級 | 126(86.3) | 155(76.0) | 281(80.3) |
| 保健学習 | 学級 | 69(47.3) | 74(36.3) | 143(40.9) |
| 道 徳 | 学級 | 5(3.4) | 15(7.4) | 20(5.7) |
| そ の 他 | 学級 | 31(21.2) | 41(20.1) | 72(20.6) |

表6 保健指導の実習時間数(時間数の明らかなもののみ)

| | | 人数(%) | | |
|------------|--|-----------------------|-----------------------|-----------------|
| 調査年 時間数 | | 1983～1986 121(100) | 1988～1991 155(100) | 全 体 276(100) |
| 1～2時間 | | 70(57.9) | 66(42.6) | 136(49.3) |
| 3～5時間 | | 45(37.2) | 65(41.9) | 110(39.9) |
| 6～9時間 | | 6(4.9) | 11(7.1) | 17(6.2) |
| 10時間以上 | | — | 3(1.9) | 3(1.1) |

表7 養護実習中に困ったこと、いやだったこと

| 調査年 | 複数回答 | | 人数(%) |
|----------------------------|-----------|-----------|-----------|
| | 1983～1986 | 1988～1991 | 全 体 |
| 記述者数 | 123 (100) | 182 (100) | 305 (100) |
| 学級と保健室の比重, 指導 | 24 (19.5) | 50 (27.5) | 74 (24.3) |
| 保健室の実習が多すぎ学級がおろそかになった | 10 (8.1) | 11 (6.0) | 21 (6.9) |
| 学級が多すぎ養護実習がおろそかになった | 12 (9.8) | 6 (3.8) | 18 (5.9) |
| 他の実習生との内容の違い | 9 (7.3) | 11 (6.0) | 20 (6.6) |
| 養護実習の理解不足 | 8 (6.5) | 9 (4.9) | 17 (5.6) |
| もう少し指導してほしかった | 6 (4.9) | 5 (2.7) | 11 (3.6) |
| 養護教諭不在の時, 実習生として何をしてよいか分らず | 10 (8.1) | 11 (6.0) | 21 (6.9) |
| 保健室の仕事内容 | 14 (11.4) | 24 (13.2) | 38 (12.5) |
| 養護実習の計画, 内容など | 3 (2.4) | 3 (1.6) | 6 (2.0) |
| 養護教諭, 担任, 学校自身の問題 | 10 (8.1) | 19 (10.4) | 29 (9.5) |
| 児童について | 6 (4.9) | 9 (4.9) | 15 (4.9) |
| 授業関係 | 8 (6.5) | 26 (14.3) | 34 (11.1) |
| 提出物 | 3 (2.4) | 4 (2.2) | 7 (2.3) |
| その他 | 13 (10.6) | 24 (13.2) | 37 (12.1) |

表8 養護実習に関する希望

| 調査年 | 複数回答 | | 人数(%) |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|
| | 1983～1986 | 1988～1991 | 全 体 |
| 記述者数 | 71 (100) | 85 (100) | 156 (100) |
| 実習の計画, 内容, 期間など | 20 (28.2) | 16 (18.8) | 36 (23.1) |
| 学級, 保健室の比重のおきかた | 6 (8.5) | 3 (3.5) | 9 (5.8) |
| もっと学級へ | 6 (8.5) | 10 (11.8) | 16 (10.3) |
| もっと保健室へ | 17 (23.9) | 23 (27.1) | 40 (25.6) |
| 養護実習だという理解がほしい | 5 (7.0) | 3 (3.5) | 8 (5.1) |
| 実習前に勉強しておきたかった | 4 (5.6) | 3 (3.5) | 7 (4.5) |
| 実習校への配当人数 | 5 (7.0) | 9 (10.6) | 14 (9.0) |
| 授業について | 7 (9.9) | 5 (5.9) | 12 (7.7) |
| 提出物 | 5 (7.0) | 8 (9.4) | 13 (8.3) |
| 大学と実習校との連絡を密にしてほしい | 1 (1.4) | 8 (9.4) | 9 (5.8) |
| その他 | 4 (5.6) | 6 (7.1) | 10 (6.4) |

表9 養護実習前に準備学習しておくべきこと

| 調査年 | 複数回答 | | 人数 (%) |
|------------|-----------|-----------|------------|
| | 1983～1986 | 1988～1991 | |
| 記述者数 | 131 (100) | 198 (100) | 329 (100) |
| 救急処置関係 | 51 (38.9) | 83 (41.9) | 134 (40.7) |
| 看護関係 | 6 (4.6) | 15 (7.6) | 21 (6.4) |
| 内科的・外科的疾患 | 28 (21.4) | 28 (14.1) | 56 (17.0) |
| 精神衛生 | 9 (6.9) | 26 (13.1) | 35 (10.6) |
| 児童の発育, 発達 | 8 (6.1) | 20 (10.1) | 28 (8.5) |
| 養護教諭の職務 | 36 (27.5) | 54 (27.3) | 90 (27.4) |
| 環境衛生, 衛生学 | 7 (5.3) | 2 (1.0) | 9 (2.7) |
| 保健指導, 授業関係 | 22 (16.8) | 27 (13.6) | 49 (14.9) |
| その他 | 11 (8.4) | 21 (10.6) | 32 (9.7) |

表10 養護実習で得たこと, 印象に残ったこと

| 調査年 | 複数回答 | | 人数 (%) |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|
| | 1983～1986 | 1988～1991 | |
| 記述者数 | 140 (100) | 204 (100) | 344 (100) |
| 学校教育運営全体 | 2 (1.4) | 16 (7.8) | 18 (5.2) |
| 児童の特性 | 32 (22.9) | 61 (29.9) | 93 (27.0) |
| 保健室を訪れる児童 | 29 (20.7) | 32 (15.7) | 61 (17.7) |
| 養護教諭の位置, 役割, 仕事全体 | 32 (22.9) | 49 (24.0) | 81 (23.5) |
| 養護教諭の児童への接し方 | 30 (21.4) | 34 (16.7) | 64 (18.6) |
| 養護教諭の他の教諭への関わり方 | 19 (13.6) | 49 (24.0) | 68 (19.8) |
| 養護教諭個々の活動 | 24 (17.1) | 28 (13.7) | 52 (15.1) |
| 救急処置, 外科的・内科的事項への判断 | 26 (18.6) | 35 (17.2) | 61 (17.7) |
| 保健指導, 授業関係 | 3 (2.1) | 19 (9.3) | 22 (6.4) |
| 大学と現場の違い | 3 (2.1) | 6 (2.9) | 9 (2.6) |
| 教師のあり方 | 5 (3.6) | 8 (3.9) | 13 (3.8) |
| その他 | 2 (1.4) | 2 (1.0) | 4 (1.2) |

表 11 実習後の心境

| 調査年 | 人数(%) | | | | | |
|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | 1986 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 全 体 |
| 回答者数 | 58 (100) | 53 (100) | 59 (100) | 48 (100) | 44 (100) | 262 (100) |
| もともと希望していたが、さらに養護教諭になりた いと思うようになった | 29 (50.0) | 36 (67.9) | 33 (55.9) | 25 (52.1) | 24 (54.5) | 147 (56.1) |
| 養護教諭を希望していな かったが養護教諭になり たいと思うようになった | 6 (10.3) | 9 (17.0) | 10 (16.9) | 7 (14.6) | 7 (15.9) | 39 (14.9) |
| 希望していたが養護教諭 にはなりたくないと思う ようになった | 7 (12.1) | 1 (1.9) | 4 (6.8) | 4 (8.3) | 4 (9.1) | 20 (7.6) |
| その他 | 12 (20.7) | 7 (13.2) | 7 (11.9) | 10 (20.8) | 9 (20.5) | 45 (17.2) |
| 無答 | 4 (6.9) | 0 | 5 (8.5) | 2 (4.2) | 0 | 11 (4.2) |

表 12 就職状況

| 卒業年 | 教 員 | | | | 企 業 公務員 | 進 学 家 事 その他 | 計 |
|------|-----|-----|-----|-----------|------------|-------------------|----|
| | 県 内 | 県 外 | 講 師 | 計 | | | |
| 1983 | 24 | 7 | 5 | 36 (65.5) | 9 | 10 | 55 |
| 1984 | 24 | 10 | 5 | 39 (72.2) | 8 | 4 | 54 |
| 1985 | 23 | 1 | 0 | 24 (42.9) | 12 | 20 | 56 |
| 1986 | 31 | 6 | 5 | 42 (71.2) | 10 | 6 | 59 |
| 1987 | 25 | 4 | 7 | 36 (60.0) | 10 | 8 | 60 |
| 1988 | 30 | 8 | 3 | 41 (68.3) | 8 | 11 | 60 |
| 1989 | 28 | 8 | 8 | 44 (74.6) | 11 | 4 | 59 |
| 1990 | 20 | 1 | 5 | 26 (46.4) | 29 | 1 | 56 |
| 1991 | 16 | 14 | 2 | 32 (54.2) | 23 | 4 | 59 |